

令和5年度 事業計画書

社会福祉法人天宗社会福祉事業会
理事長 土井 加津人

令和5年度における当法人・各施設の事業計画概要は次のとおりです。

1、 全体概要

初代理事長土井鶴之助氏が法人を設立して63年が経過しました。保育所不足時代に長吉の地に定員60名の保育所を開園し、現在は保育所6カ所（内1カ所は大阪市委託保育所）と老人デイサービスセンター2カ所の経営を行っている。新型コロナウイルスの感染防止に対応した事業実施を検討する。

近年続いている少子化傾向に加え今冬は新型コロナウイルスとインフルエンザの流行が重なり、幼児まで感染が広がり、その対応に苦慮する。コロナ倒産や光熱水費や物価の高騰も続き、親の離職者も増え、園児数の減少も止まらない。平野・東住吉区では待機児童も無く、園児数の確定も遅くなり保育士数の不足や過剰が出来る。保育士の定着を期すため給料のUPの処遇改善臨時特例事業手当の維持、増額を望む。しかし永年地元の保育所として運営してきたノウハウを生かし、子どもの最善の利益を保証し、将来国家を支える有用な人材となるように、職員一同一丸となり、さらに保育に専念する所存であります。

このように今後も法人・施設運営の厳しさが増す傾向にあるが、各施設独自に工夫し、資金面においても赤字が出ないように努力していきたい。又、収益事業部門では、保育用品販売の収入も減少傾向になる。旧福祉専門学校建物の有効活用としてクリニックに貸与し賃貸料を収益に計上している。

2、施設概要

〔保育所運営概要〕

① 今年度は、清見台園と矢田第三保育所で利用定員の変更をするが、今後他園も園児数に見合った定員変更も考慮する（保育単価の変更が可能の場合）。又、保育所運営規程と保護者説明の保育所重要事項説明書の作成も、毎年、多少の変更が生じている。

保育園児数が全体で昨年より23名減少した。尚、各園利用定員に余裕があるため途中入園を積極的に受け入れていく方針だが保育士の人数により、困難な場合が出てくる。家庭で保育されている子どもが親子一緒に来園し楽しく過ごす子育て支援も新型コロナウイルスの影響を考慮しながらも申し込みがあれば実施の計画をする。

建替え済みの天宗瓜破東園を除く各園も設立より年数が経過し、建物維持のため園舎の耐震化、補修工事が必要となっているため、各園の経営努力により自己資金の積み上げを期待する。

② 処遇改善Ⅱ（キャリアアップ）の補助金確保のため、各園、保育士の研修機会を出来るだけ増やし、キャリアアップの単位を取得する。又、相互に保育内容の向上に努めるとともに、各施設の地域性も重視し、各園独自のアイデアによる保育を実施し、地域に密着した保育に取り組む。オンラインによる研修も増えているので、その充実を図る。

③ 各園共保育の向上を目指し、外部講師による特別保育指導を保育士も学びながら充実した保育の指導が出来るように引き続き実施する。

④ 「食育」の観点から給食材料の安全性、給食献立も工夫し、食物アレルギーの園児にも

対応したものとなっている。

- ④ 地域の子育て支援や小学校との交流も新型コロナウイルス感染状況を把握しながら検討していく。
- ⑥ 保育園児の安全を図るため、門扉のオートロック化を図り不審者の進入を防ぐとともに、遊具の安全点検を随時実施し、園内外での子どもの安全教育を強力に図る。
夜間は警備会社の機械警備を実施し施設・設備の安全を図る。
- ⑦ 各園、ICT化〔業務省力化〕の設備を整備し、園児の登・降園時間のチェック、職員の出・退勤管理に利用している。今後、保育文書の作成等に活用し、保育士の業務省力化に利用する。

○ 天宗瓜破園

瓜破園の南に位置する大阪市営住宅の取毀の後、更地となったままで、利用されていない。又北側の公営住宅団地も老朽化による撤去のため、戸数も減少している。今年度は園児数が昨年度より17名減少したが、保育単価変更基準以上のため定員変更はしなかった。保育事業では、乳児保育・特別支援保育・延長保育等を引き続き行う。又てんそう苑や平野地域デイの老人と園児の交流会や子育て支援としての毎月1回子育て支援・園庭開放は新型コロナウイルスのため一時中止しているが、状況を見て再開する。又大学等の保育実習は例年通り受け入れる。毎年、各種の児童絵画展に出品し、好評を得ているので、引き続き出品し、職員・園児の励みとする。

この地区は水害対策地区に指定されているので、火災避難訓練と共に地震や津波の防災訓練又不審者対応の訓練も行い安全性を強化する。それに対するマニュアルも整備する。

職員の健康診断、健康管理、ストレスチェックについて、どい総合クリニックの産業医と対応していく。

○ 天宗瓜破東園

“伸び伸びと元気に育つ子” “何事にも思いやりや優しさの持てる子” “工夫して遊ぶ力を持つ子” の3つの理念に沿って職員全員が共通理解のもと保育を進めていく。

ICTシステムルクミーを活用し、ヒトコマ（写真に子どもの気付きや育つを文章で残す）という機能を日誌として活用することで業務負担の軽減。また学年、複数担任クラスで週1回クラスミーティングを行い、写真を使って保育の振り返りを行うことで保育士間の連絡を図る。保護者へ保育の内容を深く知ってもらうため、ドキュメンテーションを作成して園内に掲示することで、子どもの育ちを共通理解していけるようにする。

保育事業では、乳児保育、延長保育、特別支援保育を引き続き行う。

子育て支援として未就園児の母子を対象に園庭開放や育児相談を行う。

菜園で収穫した野菜を使ってクッキングを行い、食育指導を行う。ホームページやSNS（y outube）を活用して園情報を発信していく。

職員の保育の資質向上を目的とした園内研修および研究発表会を開催する。

副主任、専門リーダーを中心にキャリアアップ研修に参加していく。

○ 天宗長吉園

子どもの基本的な生活習慣を育てると同時に、小学校以降の社会で、自分の力で切り開いていける能力を培っていけるよう、その前段階である幼児期に、当園では子ども達が自由に発想し、行動する能力を育む。子ども・職員ともに柔軟に新しいことを発想し、挑戦出来る環境を整え、創造力を養う人材の育成を目指す。職員の研修も積極的に参加し

(Web 研修含む)、キャリアアップにつなげていく。また、コロナの影響で子どもの表情をくみ取る力が衰えてきている現状を鑑み、保育士はマスクなしで、表現豊かに子どもの目線で保育していく。保育事業として、乳児保育・延長保育・特別支援保育を行う。子育て支援の一環として、園庭開放、保育園体験、育児相談を実施する。中学校、高校の職場体験、大学の保育実習やボランティアも受け入れ、地域とのつながりも深めていきたい。

園での活動は、ホームページのブログなどで、普段の様子を閲覧できるようにしている。

○ 天宗東住吉園

地域との繋がりを大切にした保育を心掛けていたが、近年のコロナ禍の影響と共に、小中学校の種々の行事にも参加を見合わせなければならぬ状況下である。感染症の状況を踏まえ、今年度は例年通りの各行事を実施していきたい。

また、季節の野菜を育て収穫し給食にて提供することにより、食を通じ感謝の気持ちを育むしていきたい。乳児保育・特別支援保育・延長保育を実施し対象者のニーズに応じていくと共に、東住吉地域子育て支援センター園として未就園児の親子を受け入れ育児相談、園庭開放等の子育て支援を行う。

地域中学校の体験学習や各専門学校・短期大学の実習生の受け入れは従来通り行い、将来を担う子どもたちの道標となるよう努める。

尚、令和4年度より導入した園と保護者の総合連絡アプリ「きつずノート」の活用により、保護者の連絡（緊急も含め）や、職員間の連絡等がよりスムーズに行えるようになったので、今年度も同様に実施予定である。

○天宗清見台園

乳児産休明け保育・一時保育（自主事業）・特別支援保育・延長保育（午前7時～午後7時）等を行う。縦割り保育の中で、協調性や思いやりの心を育む。又、特別保育として、和太鼓、茶道教室、英会話、ソロバン教室等を希望者対象に無料で実施する。地域のお年寄りや未就園児童を園行事に積極的に招き、在園児との交流を深めると共に、緊急入所児童の受け入れや育児相談を行い、子育て、子育てへの支援に努める。新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図る。

ICT化導入により、園児登降園管理・職員勤怠管理等をパソコンとタブレットで行う。

河内長野市保・幼・小連絡会に参画し、交流会や研修会を通じて連携を深める。

川上地区まちづくり協議会の交流活動である芋掘りを園児たちに体験させる。

地域の小学校との連携を図りながら、学校見学会、生徒との交流を通じて就学への援助を図る。

地域の中学校からの職場体験、大学等からの保育実習の受け入れを行う。

毎年、園児の減少により、収入額より支出額が大幅に増えているので、今後、定員変更や支出の見直しを図り、本部よりの借入金の縮小を図りたい。

○ 大阪市立矢田第三保育所

大阪市より運営委託を受けて、12年を迎えた。乳児保育・延長保育・特別支援保育・子育て相談を行う。地域交流の一貫として小学校区教育協議会による会議や新聞発行等で連携を深めて行く。小中学校の職業体験、実習生の受け入れ等を行う。

新型コロナウイルス感染症により休止していた所庭開放等を含む子ども達の交流活動を開始し、保護者の来所を含む行事等は、昨年同様に人数制限をしながら取り組んでいく。

保育は「全体的な計画」を基に、食育は「食育年間計画」を基に、所児や保護者に寄り添いながら、ひとりひとりを大切にし、安定した保育の提供と子育て支援を行って行く。

[老人通所施設運営概要]

- ① 老人地域在宅ステーションが単独施設運営のため、融通性が無く、余裕のある経営とはなっていないが、種々のサービスメニューを検討し、収入の安定を図りたい。
- ② 老人人口の増加を見込み同種の施設が株式会社やNPO法人等で又介護付き有料老人ホーム等民間業者で増加しているが、サービスの向上で利用者増に結び付けたい。

○ 瓜破西地域在宅サービスステーション「てんそう苑」

開設して24年経過し設備が古くなりつつあり計画的な設備更新を行い、新型コロナウイルス感染症の影響で収入も減少しているが、積み立てを行っていききたい。

デイサービスについては利用者数の減少により収益が低下しており自立支援・重度化防止に向けて科学的介護の実践の推進、選ばれるサービスの創出に努め業績の改善を目指していく。また、感染症・災害対策の取り組みを立案し研修を実施するとともに、地域住民と連携を図る。

医療依存度の高い方や、中重度利用者及び認知症の利用者に対するサービスの質の向上を図る。

意欲向上の取り組みの実施、日常生活機能の向上をめざして、低栄養対策を含めた総合的な生活機能向上プログラムを充実していく。デイサービスの効果を周知するためパンフレットを作成しケアマネージャーに広く伝えていくことで新規利用者の増加を図りたい。訪問介護については、人材を募集しても集まらず、ヘルパーの高年齢化が問題となっている。求人を継続すると共に在籍しているヘルパーについて、研修を通じて質の向上を図ると共にキャリアアップ出来るようにしていく。

居宅介護支援については特定事業所加算を継続し、地域包括ケア推進に向けての取組やZoom等を活用し医療連携の推進、地域のネットワーク作りの参画、個々の質の向上を図るとともに基準の順守に努めていく。

ブランチ（介護支援センター）では地域包括支援センターと連携し、見守り訪問を積極的に行っていき実態把握及び総合相談を行う。又、地域住民向けの広報や講演会を行い、周知につなげていく。

○ 平野在宅サービスステーション

開設して19年となる。新型コロナウイルス感染対策の観点より安心安全にサービス利用が出来るよう努める。又、閉じこもり予防や身体機能の向上を図り在宅生活に必要な支援を行う。

常勤の理学療法士により利用者の身体機能の回復や生活機能向上及びその人らしい生活の実現を目指す。事業所においては適正なサービス提供が出来るように人員確保に努め、研修会等定期的に開催し、質の向上を図りより良いサービス提供を実施することで、利用者増員に結び付けたい。

訪問介護は日曜日・祝日のサービス提供を引き続き実施する。又、多様なニーズに対応出来るようヘルパーの研修会等を定期的に開催し質の向上を図る。

総合相談窓口（ブランチ）では地域の相談窓口として各種相談に応じる。又、地域ネットワークの構築、権利擁護、高齢者虐待等の相談に応じ、適宜、関係機関と連携す

る。

居宅介護支援事業においては、主任介護支援専門員を配置し、地域の相談や介護支援専門員の後方支援を図れるよう努める

3、年間基本保育日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保育日数	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293
日、祝、休業	6	7	4	6	5	6	6	6	7	8	6	5	72
合計	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

園により臨時休園・臨時開園をとる場合があります。

4、保育児童数（令和5年4月1日予定）全園児数名（令和5年3月1日現在）

保育所名		瓜破園 -17		瓜破東 +5		長吉園 -7		東住吉園+2		清見台園-7		矢田第3+1	
		標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間
児童数内訳	差数 -23	156	33	176	57	174	55	95	45	41	2	65	25
	0歳児 +7	3	5	9	3	11	1	5	1	5	0	4	2
	1歳児 -8	19	5	28	8	24	6	17	3	3	0	9	4
	2歳児 +2	30	5	29	12	27	9	15	9	8	1	12	4
	3歳児 -4	30	6	34	12	35	12	21	9	11	0	16	2
	4歳児 -22	33	6	37	15	33	14	17	13	4	1	11	6
	5歳児 +2	41	6	39	7	44	13	20	10	10	0	13	7
特別支援児保育	内数1名	4名 -2		3名 -2		5名 -1		1名		2名 -1			
東住吉園	子育て支援職員 常勤1名 パート2名												

5、老人関係

瓜破西地域在宅サービスステーション てんそう苑

デイサービスセンター 定員30名 職員 常勤 4名 パート 13名

訪問介護 年間3200回 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 9名

居宅介護年間420回（職員は訪問介護と兼務） 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 9名

居宅介護支援（ケアマネージャー） 職員 常勤 3名うち兼務1名 （主任介護支援専門員2名
・介護支援専門員1名）

在宅介護支援センター ブランチ 職員 常勤 1名（社会福祉士）（専任）

平野地域在宅サービスステーション

デイサービスセンター 定員25名 職員 常勤 3名 パート 9名

訪問介護 年間960回 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 2名

居宅介護支援 年間780回 職員 常勤 1名（専任）、兼任1名（主任介護支援専門員）

在宅介護支援センター ブランチ 職員 常勤 1名（社会福祉士）（専任）

兼任1名（主任介護支援専門員）